

彙報

○宗学研究の後継者育成を目的として昭和四十八年、研究所に設けられた研究生制度は四十七年目を迎えた。宗費研究生は前年度より継続の戸田教敏・清水祥華・有村憲浩、再任の堀江瑛正の四名、研究生は前年度より継続の堀内紳行の一名である。また、令和元年九月より令和二年一月まで、ドイツのルートヴィヒ・マクシミリアン大学ミュンヘン（ミュンヘン大学）博士課程に在籍するセレーナ・オペレット氏を研究生として受け入れた。研究生は所員・研究員の指導の下で研鑽につとめ、日蓮宗教学研究発表大会等でその成果の一部を発表している。

また左記の通り研究生研究会において各自の研究成果を報告し、活発な討論が交わされた。

六月五日

一如院日重の略伝 有村憲浩
日蓮聖人の本尊観に関する一考察
―「感応道交」を視点として―
清水祥華
七月三日

田中智学の国体論に関する一考察
―先行研究の整理と今後の課題―
戸田教敏
上行菩薩観をめぐる一考察―初期
門流を中心として― 堀江瑛正
日蓮聖人遺文にみられる『摩訶止
観』の引用―特に佐渡期の遺文を
中心として― 堀内紳行
十二月四日

○日蓮教学研究所月例研究会
五月二十九日
「母性」概念と宗教―ジェンダー
の視点から― 所員 丹治恭子

七月二十四日
後期インド仏教における正法五千

年説 所員 庄司史生
十月三十日
マトウラーと通商路―サカリク
シャン時代を中心に―
所員 高橋堯英

十一月二十七日
近代日本にみる日蓮信仰の諸相―
佐藤鐵太郎の信仰―
所員 三輪是法
一月二十九日
中國における末法思想の隆替の一
齣 所員 手島一真

○日蓮教学研究所では昭和四十八年度より建学の精神の浸透を目的として「仏教講座」を開催している。本年度は、左記の講演がおこなわれた。
十二月三日（第五十九回）
中世寺院とその史料―特に聖教に
注目して―
日本女子大学
名誉教授 永村 眞氏

○日本印度学仏教学会第七十回学術大
会は九月七日・八日の両日、京都府

の佛敎大学紫野キャンパスで開催され、本研究所より左記の諸氏の研究発表があった。

『八千頌般若』「須菩提品」とは何か―『世尊母伝承随順』による理解を手がかりとして

所 員 庄司史生
西山本門寺所蔵の日順『内過去帳』について 所 員 本間俊文
「靈山八ヶ年」について 客員所員 藤井教公

Dipankarastūpana に帰せられる13のマントラの流儀について

客員所員 望月海慧
広蔵院日辰の本迹論に関する一考察―序品題号の「妙法」をめぐって― 研究員 神田大輝
寂撰『法華経集験記』をめぐる諸問題 研究員 金 炳坤
草山敎学の継承―本妙日臨における元政と慧明―

研究員 桑名法晃

堅樹院日寛における広蔵院日辰敎学批判 研究員 水谷進良
日隆にみる最澄の著述引用について 研究員 米澤立晋
田中智学の日蓮敎学史受容について 研究生 戸田敎敏

○日本宗敎学会第七十八回学術大会は九月十三日〜十五日の三日間、東京都の帝京科学大学千住キャンパスで開催され、本研究所より左記の諸氏の発表があった。
日蓮の大曼荼羅図顕の背景 顧問 渡邊寶陽

河口慧海の經典観 所 員 庄司史生
テイラウラコット遺跡発掘の現状と課題 所 員 則武海源
「四十五字法体段」における「己心」の二重性―日蓮の一念三千― 客員所員 間宮啓壬
止観における負の側面への対処法について 客員所員 蓑輪顕量

近世日蓮宗寺院における伽藍配置の特徴 客員所員 望月真澄
日蓮著『立正安国論』における問答形式をめぐって 研究員 矢吹康英

日蓮聖人敎学における『摩訶止観』受容の一側面 研究生 堀内紳行

○日本佛敎学会二〇一九年度学術大会（第八十九回大会）は八月三十一日・九月一日の両日、東京都の東洋大学白山キャンパスで開催され、本研究所より左記の諸氏の研究発表があった。
釈迦金棺出現図の主題をめぐる一考察 所 員 安田治樹

○第七十二回日蓮宗敎学研究発表大会は、十一月八日・九日の両日、立正大学品川キャンパスにおいて開催され、本研究所関係者も多数参加して研究発表をおこなった。大会プログラムは左記の通りである。
十一月八日（金）―午前の部―

一、開会式

- 一、法味言上 望月兼雄
- 一、挨拶 中川法政
- 一、挨拶 持田貫宣
- 一、挨拶 吉川 洋
- 一、挨拶 高橋堯英

一、研究発表

- 一、如院日重教学の研究―生涯の検討 有村憲浩

日蓮聖人の本尊観に関する一考察 清水祥華

清水祥華

日蓮聖人における題目の専修―末法の良葉を視点として― 森影康伸

森影康伸

『撰時抄』の断片と推定される東金本漸寺蔵、御真蹟について 川崎英真

川崎英真

岸了著『弁無得道論』における日蓮への弁駁 庵谷行遠

庵谷行遠

〈第一会場〉
瑜伽師地論菩薩地戒品についての

一考察

田代恭菜

円珍『法華論記』の撰述に関する一考察 浅野 学

日蓮宗絵曼荼羅の分類と変遷について 加茂通佳

吉蔵と智蔵の二諦説の差異について 中井本勝

プトガラと有身見 木村 紫

ステイラマティの唯識思想の特徴 伊藤瑞康

―午後の部―

一、研究発表

身延山流声明の成立と発展に関する試論 池上要靖

近世日蓮宗寺院における伽藍配置の特徴―滝谷妙成寺の事例を中心に― 望月真澄

六或示現と普現色身三昧 岡田行弘

日蓮と本覚思想の研究課題 花野充道

佛立開導・長松日扇師の信行成仏

論―三途成不論争を通して―

福岡日雙

日蓮聖人と下総局の周辺について 高橋俊隆

『観心本尊抄』の題号について 庵谷行亨

優陀那日輝『一念三千論』第六科「本迹」をめぐる一考察 渡邊寶陽

十一月九日(土)

〈第一会場〉

上行菩薩観をめぐる一考察 堀江瑛正

日蓮聖人における『摩訶止観』の受容 堀内紳行

田中智学の国体論に関する一考察 戸田教敏

広蔵院日辰の本迹論に関する一考察 神田大輝

『品類御書』について―近世に出版された日蓮宗関係書籍の一隅

(二二)― 堀部正円

日蓮宗寺院と大名家―恵光寺と水

野家一

木村中一

〈第二会場〉

「鬼子母神十羅刹女像」について

—富山県氷見市蓮乗寺所蔵長谷川

信春作— 野際清美

マインドフルネスとしての『観心

本尊鈔』 影山教俊

本妙日臨における日蓮聖人図顕大

曼荼羅の書写—始頭本尊を中心に

— 桑名法晃

ガンダラ文化圏における火焰表

現について 内藤善之

般若経における「後五百歳」説

庄司史生

一、閉会の辞

なお、本大会の授賞式において、望月学術賞、仏教文化学術賞、四条学術奨励賞が左記の通り授与された。

望月学術賞

日蓮宗 妙覚寺住職

高橋俊隆

・「日蓮聖人の歩みと教え（鎌倉期）」

（山喜房佛書林、平成二十八年三月）

・「日蓮聖人の歩みと教え（佐渡期）」

（山喜房佛書林、平成二十八年五月）

・「日蓮聖人の歩みと教え（身延期）」

（山喜房佛書林、平成三十年十一月）

坂本日深学術賞

客員所員 望月海慧

「チベット語訳『妙法蓮華註』和訳」

に関する一連の論文に対して授賞。

四条学術奨励賞

研究生 清水祥華

「日蓮教学における本尊論の研究」

（平成三十年度修士学位請求論文）

なお、仏教文化学術賞、富木学術奨

励賞については、本年度は該当者なしと報告された。

○令和元年度の積尊・宗祖聖日記念法

要は、品川キャンパスで厳修された。なお、左記の聖日記念講話があった。

四月二十二日（立教開宗会）

法華経成立の社会的背景と「菩薩」

の自覚 仏教学部 高橋堯英 所員

五月七日（伊豆法難会）

何故法華経なのか

仏教学部 三輪是法 所員

十一月五日（小松原法難会）

苦難の意義

仏教学部 原 慎定 副所長

十二月十三日（积尊成道会・宗祖降誕

会・災害物故者追悼法要・仏教学部

公開講座。＊台風第十九号の影響により延期された日蓮聖人涅槃会を併修）

日蓮さまのお心に聴こう—日蓮聖

人のお手紙より（嵐圭史・ひとり

語り）— 嵐 圭史氏

○日蓮教学研究史料調査

令和元年六月五日、本研究所に所蔵される姉崎正治の書簡・履歴書類等の関連史料、全八十二点の記録採取と写真撮影を行い、仮目録を作成した。

参加者

安中尚史、本間俊文、神田大輝、戸

田教敏、堀江瑛正、堀内紳行、清水

祥華、有村憲浩

○日蓮教学研究所研修旅行

本研究所以は平成二十六年度より、各自の研究に関連する日蓮宗寺院及び名所・旧跡をたずね、研究の一助に資することを目的とした研修旅行を実施している。令和元年度は、令和元年八月六日・七日の両日で、静岡県伊東市・三島市を中心に行われた。

初日は伊東駅に集合、法華宗陣門流霊跡別院蓮着寺（中野日仁住職）の「組岩」を見学した後、日蓮宗蓮慶寺に参詣、田中智海住職の案内により、御岩屋祖師堂を参拝した。昼食後、日蓮宗仏光寺（安部雅宣住職）、日蓮宗霊跡本山佛現寺（板垣圭祐貫首）に参詣、寺宝等を拝観した。その後、伊豆の国市に移動し、宿泊場所の伊豆長岡温泉かめや恵庵で懇親会を行った。

二日目は、世界遺産「明治日本の産

業革命遺産」にも含まれる国指定史跡葦山反射炉、国指定重要文化財の江川家住宅（江川邸）を見学し、日蓮宗由緒寺院本山本立寺（鈴木日顕貫首）に参詣した。昼食後、三島市に移動し、日蓮宗由緒寺院本山妙法華寺（小池日恩貫首）に参詣し、寺宝等を拝観した。その後、伊豆国一宮三島大社（矢田部盛男宮司）を参拝し、三島駅で解散。

参加者

寺尾英智、原 愼定、神田大輝、戸田教敏、堀内紳行、堀江瑛正、清水祥華、有村憲浩

○『日蓮教学研究所紀要』発行に際して、左記の方から御支援を賜り、本号編集刊行の糧とさせていただきます。ここに御芳名を掲げて厚く御礼申し上げます。

北海道 池田光順殿



佛現寺本堂前にて集合写真



蓮慶寺本堂にて研修の様子